

その14 中振

(平成7年8月1日号—第177号)

枚方市の南西部に位置する中振[なかぶ]り]地区。南中振の丘陵に建つ蹉跎[さだ]神社は、昔の中振をしのぶ、数少ない場所の一つです。

神社の創建には、こんな伝説があります。昌泰[しょうたい]4年(901)、菅原道真[すがわらのみちざね]が大宰府に流される途中、この地で休息をとりました。その道真を慕って、都から娘の菟屋姫[かりやひめ]が跡を追ってきたのですが、姫が到着したときには、道真は旅立った後でした。姫は、

父恋しさの余り小山に登り、足ずりして悲嘆に暮れたそうです。足ずりすることを古語では「蹉跎」といいます。後世の人は、姫の孝行心を尊んでこの地を蹉跎山と名づけ、神社を創建したといわれています。

蹉跎村は、中振・走谷・出口の3村が合併して明治22年に誕生しましたが、約半世紀で枚方町に合併されてしまいました。中振地区は、合併当時蹉跎村の面積の半分以上を占め、人口900人も大きな村落でした。今も残る町並みは、その歴史の重みを感じさせます。

中振地区は、京阪電鉄の線路を境に、東側は段丘、西側は平野になっています。段丘は、縄文時代、大阪湾の波打ち際だったことを示すものとされています。

かつては、縄文人が獲物を追っていた中振の丘。今は、大阪市立高校をはじめ、蹉跎小学校、香里丘高校、関西創価小学校が集まり、生徒・児童が集う学びの丘となっています。



23 蹉跎神社(南中振1丁目)